

<海外情勢>

新型コロナ禍の後……日本が輝く？！

—景色が一変する「コロナ禍の世界」！ 激変する世界の未来を読み解く—

世界中を恐怖に叩き込む新型コロナ肺炎は、4月中旬時点で、まだ先が見通せない。新型コロナ禍は既に経済・産業に甚大な被害をあたえ、全世界が大きく変貌しつつある。終着点はまだ見えていないが、現時点での世界の今後を展望してみよう。

「欧米の没落」と「アジアの時代」の到来

新型コロナ禍後の世界がどうなるか。その答えを初めに述べておこう。

新型コロナ騒動がいつまで続くかは後刻述べるが、いずれにしても既に未来像が見え始めている。この嵐が過ぎ去った後に登場する世界は、簡単に言うところなる。

- 米国が世界に君臨していた時代が終わる。
- 欧州が没落し、力を得たロシアが欧州と中東に政治的・軍事的影響力を持つ。
- 中国が中東や欧州の企業を買収し傘下に置く。
- 世界はアジアが中心となる。中国・インド・日本などが世界秩序を形成する。
- 圧倒的な強国がなくなり、国際関係安定のため国連に替わる機関が出現する。

大きくまとめれば以上の5点になる。

世界は新型コロナ禍の最中に、既にその方向に向かって動き始めている。

米国の凋落は、既に数年前から始まっていた。本当は20年以上前の1990年代に始まっていたとも思われる。新型コロナがそれをダメ押しした感がある。産業・経済がダメージを受けるのは米国だけではなく、世界共通だ。中国ももちろん被害を受けたし、日本の場合も屋台骨である中小零細業がガタガタにされる。企業利益は全体として減少し、それが復活するには相当な歳月を必要とする。いや、歳月を費やしても復活しないだろう。

そして——ここが重要なのだが——投資家や起業家が濡れ手でアワを稼ぐことが不可能になる。これが米国の「**経済・産業**」を破壊し米国に巢食っていた投資家たちは、そのカネを移動させる。それによって米国は更に弱体化させられ、結果として米国を「**ふつうの国**」にしてしまう。米国が中東やアジアから軍を撤退させることは、トランプ大統領就任以降に段階的に行われてきた。トランプは米国の未来を冷静に見つめ、「**アメリカ・ファースト**」を口にしながら、米国を「**世界唯一の一等国**」から「**南北米大陸だけの王様**」に仕立てようと動いてきた。

その動きが一気に加速される。英国がEUから離脱したが、コロナ禍後のEUの混乱は想像以上に大きい。「**国境**」という壁を取り払い、EUという連合体を目指していたが「**新型コロナ**」騒動がこの歩みをストップさせた。EUは徐々に崩壊していくが、EUの崩壊は欧州のあちこちで紛争を生み出すだろう。米国の弱体化と共にNATO（北大西洋条約機構）は崩壊する。

ロシアは堂々と大手を振って欧州に侵食を開始する。既にロシアは中東を押さええているから、欧州がロシアの圧力から逃げるには「**中国の力**」を借りるしかなくなる。

一方、中国はこの新型コロナ騒動で、株価が下落している欧州のめぼしい企業の買収を既に、4月初めから開始している。その様子は「**中国が欧州企業を爆買い**」と世界の話題になっている。第一次大戦後、英国が世界を支配する時代が続いた。第二次大戦後は、英国は背後に隠れ、米国が世界の頂点に君臨してきた。こうした時代が終焉する。

世界はアジアを中心に回り始める。

「**中国の未来**」は「**中国自身が決める**」

問題は中国だ。欧米が没落すれば、当然ながら中国が世界に君臨しそうなものだが、そうはいかない。そもそも中国がこの先どうなるかは、誰にも見通せない。

中国自身にも見通せない。中国の近未来として、次の5つの形が想像できる。

- | |
|---|
| 1、現在の中国がより強力な国家となり、台湾も呑み込んで巨大統一国家となる。 |
| 2、共産党中国が解体し、新たな政治体制の国として生まれ変わり、世界に号令を発する。 |
| 3、今日同様の国家として存続するが、内部対立が激化し先行きの見通せない混乱状況が数年以上継続。世界への影響力も薄れる。 |
| 4、中国が南北に分裂し、両者が対峙・激突しながら、2つの中国が世界を仕切る。 |
| 5、中国が4～7つに分裂し、その一部が日本や台湾と連携しながら世界の中心となる。 |

上の「1」の場合には、朝鮮半島全域も中国圏に組み込まれ、東南アジア各国もそれに追随することになる。習近平政府が狙うのはこの形だ。そうなれば日本も日米安保を打ち切って「**独立国**」となるが、結果的には中国圏に組み込まれる。日本にとって一番ショックな形だ。だが米国・ロシアがそれを許すだろうか。日本や台湾あるいは東南アジアなどの周辺国がそれを許すだろうか。「1」の形になる可能性は、限りなく少ない。

「2」の形に移行するには、中国内部の大混乱が必至だ。14億人とも言われる中国総人口の中で、**共産党員はわずか6%以下の9,000万人**だが、この9,000万人が今日の中国を動かしてきた。中国が米国にとって代わって世界の覇者となるには、共産党体制からの脱却が必要だが現在の「**社会主義市場経済**」では、いくらがんばっても世界の覇者にはなれない。

新型コロナ騒動程度では、共産党体制がひっくり返る可能性はない。従って「2」になる可能性もかなり少ない。そう考えると、この新型コロナ騒動以降の中国は「3」「4」「5」のいずれかになると考えられる。この場合、アジア駐留の米軍が消えても、アジアに対する米国の影響力は残る。しかし朝鮮半島を仕切る力は、米国にはなくなる。従って北朝鮮主導の朝鮮半島統一が現実味を帯びてくる。それでは「3」「4」「5」のどれになるのか。

それを決めるのは中国人自身だ。

アジアが世界をリードする

新型コロナウイルスにより、世界中の国々が悲惨な状況を迎えた。戦争でもないのに、国土が焦土化している現状だ。民衆は食べて生き残るだけが精いっぱい、製造ラインも破壊され、消費意欲も失われてしまう。こうした中、幸いにも被害を最小限に留めているのが台湾であり、それに続くのがインドと日本だ。

欧米に蓄えられていた資金は欧米を離れ、アジアに——当面は日本に移動する。

この状況下に、取り合えず資金を緊急避難させられる場所は、日本以外には考えられない。おそらく日本は、新型コロナ騒動の終息を待たずにバブル状況に突入する。しかし現在の日本は、カネの一時的な緊急避難場所ではない。日本は政治能力を持たない。

軍隊を持たない国に、混乱する国際政治環境を乗り切る力はない。日本がまともな国と手を結べば、世界をリードする国に変身できる。憲法を改正し「**自衛隊を国軍**」とすれば、世界有数の軍事力を持つ国として世界のリーダーになれるなどという話は妄想に過ぎない。

仮に憲法を改正しても、自衛隊が戦闘可能な軍になるには10年以上の歳月と実戦体験が必要だ。憲法改正・自衛隊の国軍化は必要だが、自衛隊が「**自衛のための戦力**」を超えることは不要だし、できない。日本は強力な軍事力を持つ国と対等な同盟を結び、国際政治の場での発言力を強めていく道を選ぶことになる。では対等な同盟国とはどこか。これまで通り米国との「**日米同盟**」を継続、強化すればいいのではないか——。それは現実的ではない。

凋落の一途をたどる米国は、太平洋を挟んだ極東にカネを注ぎ込む余裕などなくなる。

日本が組む国はどこか。インド・中国・台湾・北朝鮮の4ヶ国しか残されていない。

ロシアは中東と欧州に向かい、極東に余力を向けられない。インドネシアやタイ・ベトナム・マレーシアなど東南アジア諸国には、残念ながら国際情勢を引っ張る下地もなく軍力もない。新型コロナ禍の後の世界をリードするのはアジアだ。世界はアジアの中で日本に期待している。軍力を持たない日本が政治力を発揮し、対等なパートナーと組んで世界をリードすることが求められる。世界をリードするのは日本であり、そのために必要な…強力な「**軍力を持つ対等なパートナー**」をどこにするか。選ぶのは日本自身だ。

新型コロナ肺炎が終息するとき

現在世界を苦しめている新型コロナ騒動は、いつ収束の方向に向かうのか。

そしてコロナ騒動が終わりに向かうとき、日本はどんな状況にあるのか。その日本の状況によって、事態は変わる。日本が新型コロナ肺炎で崩壊寸前になっていれば、世界のカネが日本に回ることもなく、日本が世界のリーダーを目指すこともない。

当然のことだが、今この時点で日本の足を引っ張り、日本をアジアの盟主につかせまいとする動きが水面下で活発化している。

ここで新型コロナ肺炎とインフルエンザの違いを説明する。面倒な専門的領域には立ち入らない。できるだけ判り易く述べる。これを理解しないと日本破壊に加担してしまう恐れがあるから、しっかりと読んで頂きたい。

ブラジルのボルソナロ大統領は新型コロナ肺炎を「軽いインフルエンザ、ただの風邪だ」といって国民から鬻ぎ（ひんしゆく）を買ったが、新型コロナをインフルエンザ同様と考える人は多い。「凶悪なインフルエンザ」といった認識が強い。これは間違っている。

伝染力の強さは、その伝染力にある。1人の感染者が一定時間に人に病気をうつす数は「**基本感染数（アールノート）**」と呼ばれ、この数値で伝染力が判る。伝染力が一番強いのは「**麻疹（はしか）**」だ。麻疹の基本感染数は12から18。1人の麻疹患者が12人から18人に病気を広げる。天然痘は5から7。中南米で流行る「**ジカ熱**」（ジカウイルス感染症）は基本感染数が6.6で、かなり高い。インフルエンザは1.3とされる。

これに対して新型コロナ肺炎は2~2.5。たいしたことはないと思われるかもしれない。

簡単に考えてみよう。インフルエンザは一定期間内に2人→4人→8人→16人…と感染者を増やしていく。新型コロナは同じ期間内に3人→9人→27人→81人…と増やす。インフルエンザ患者が次から次へと10回にわたって伝染させると1,024人に病気をうつす。

同様に新型コロナ肺炎が10回感染させると59,049人に病気をうつす。インフル1,000人の時点で新型肺炎は6万人だ。数字上は60倍となる。

しかも、ここには抗体を持つ人の作用が入っていない。毎年襲ってくるインフルエンザに対して、抗体を持つ人間がいる。この抗体を持つ人間が集団で存在すると絶縁体となり、インフルは伝染が止まる。だが新型コロナ肺炎の場合、今のところ抗体を持つ人間がいない。

(1度かかった人が抗体を持つことは多いが、新型肺炎の場合は未確認。また一部では抗体を持つ人間が特定されたとされるが、正式な検査結果ではない。)

さらに大きな問題は「潜伏期間」である。インフルエンザはうつってから2日で発症する。

潜伏期間は2日だ。新型コロナ肺炎の場合は5日から14日が潜伏期間だ。潜伏期間中にも人に病気をうつしてしまう。新型コロナ肺炎の恐怖は、伝染力と同時に潜伏期間の長さにある。2週間以上、できれば倍の4週間ほど人の動きを止めれば、新型コロナ肺炎の伝染は停止する。首都圏1都3県・大阪・兵庫・福岡の緊急事態宣言の意味はここにある。

「発症者・感染者だけを隔離して、無症状者など一般人が動くことを止めるのは合理的ではない」という主張は、日本の破壊工作なのだ。世界の未来のため…人類の明日のために…僅か1カ月弱の行動自粛ができないはずはない。「休業補償はどうしてくれる!」「子供の保育園はどうなるんだ!」などの言葉は、コロナ騒動が終わってから考えろ。

3.11東日本大震災で全てを失った人たちと比べ、命があるだけ良かったと思うべきだ。

近隣のどこかの国の工作員の説得にのってパチンコ屋に出掛けたり、昼から居酒屋に向かうのは「日本破壊工作の一翼」を担うことになる。

「混雑した乗り物にも乗らないし、マスクはしているし、うがい・手洗いも忘れない。近所の飲み屋に出かけて何が悪い?」——こう口にして、街をうろつく人たちもいる。それが間違いなのだ。感染者のくしゃみで吐き出されたウイルスは空中を漂い、時に地面に落ちて靴の裏に付着する。そのウイルスが店内の空調で再び空中を漂い、客の手や顔にたどり着く。

新型コロナウイルスの基本感染数は2~2.5。1人が10回うつして6万人の感染者を発生させる。今回の緊急事態宣言によって、4月末から感染者が激減する可能性がある。

5月初旬には、時に「前日の感染者はゼロ」という報告があるかもしれない。ゼロはともかく、新たな感染者数が2ケタから1ケタに下がれば、一気に終息局面を迎える。

5月末か遅くとも6月末には、新型コロナ感染者の話題は消えていき、日本は平常に戻るだろう。だが怪しい情報に惑わされ日本破壊工作に手を貸す連中が多くなれば、コロナ禍の日本は外出禁止要請を続けるしか手がなく、グズグズと自滅する道をたどる。

本物のパンデミックが襲来する日

新型コロナ肺炎禍が過ぎ去れば万々歳…。日本の景気はV字復活するどころか、バブル景気を迎える——という訳にはいかない。大きな流れとしてはそうなるが、バブル景気にしても以前のように「右肩上がり」が続くような単純なバブルではない。投資や債券でカネを作っていた連中は荒っぽい稼ぎを始めるだろう。バブル期を迎えた日本株も、着々と右肩上がりを見せていたと思うと一気に奈落の底に落ち、また再び暴騰するといった乱高下が繰り返される。金融・経済に限らず、社会全体が当分は不安定な状況に置かれる。

そんな状況の最中に、あるいはその直前に顔を真っ青にするような恐怖がやってくる可能性が高い。本物の「パンデミックの襲来」だ。

今回の新型コロナ肺炎には「人口生物兵器説」の噂があったが、予想ほど危険なものではなかった。——そういと非難されそうだが、実際、歴史上に見られたパンデミックのペスト（黒死病）やスペイン風邪ほど凶悪な病気ではなかった。

謀略説を含む様々な情報の中に、2020年に「恐怖のパンデミック襲来」という話がかかなり以前から指摘されてきた。その中には霊能者の予言もあったが…。いずれにしても今回の新型コロナ肺炎は、凶悪であるものの想像より大人しいものだった。だが、本物がこれからやってくる可能性がある。その本物のパンデミックは、既に姿を現しているかもしれない。

3月23日——。中国では新型コロナ肺炎騒動の山が収まりつつあるように見えた頃だった。雲南省の出稼ぎ労働者がハンタウイルス感染症に罹り、発症から僅か3時間後に死亡したのだ。ハンタウイルス感染症は大東亜戦争の最中に日本軍が満洲で罹り、その後1950年に始まった朝鮮戦争で国連軍の兵士3000人がこのハンタウイルス感染症に罹っている。

この病気の怖さは、発症して「すぐに死に至る」ところにある。

さらに南京大学の研究によると、新型コロナ肺炎患者1,314人中の86人（0.7%）に「重度の胃腸障害」が認められたという報告がある。新型コロナウィルスの進化系・変性コロナの可能性との指摘もある。ある日突然、新型コロナ肺炎などとは比較にならないほど凶悪な「本物のパンデミックが襲来」する可能性は思いのほか高い。今回の緊急事態宣言は、その予行演習になるかもしれない。気を付けなければならない。

以上は私の過度な推測であるのか…現実は何等、躊躇うことなくやってくる。

しつかりと現実を見据え対処しよう。

しかし国会議員として、責任部署に携わる諸氏の時局に対する緊迫感の欠如には、「国家百年の計」に思いをめぐらす者、皆無であろう…失意限りなし…。■